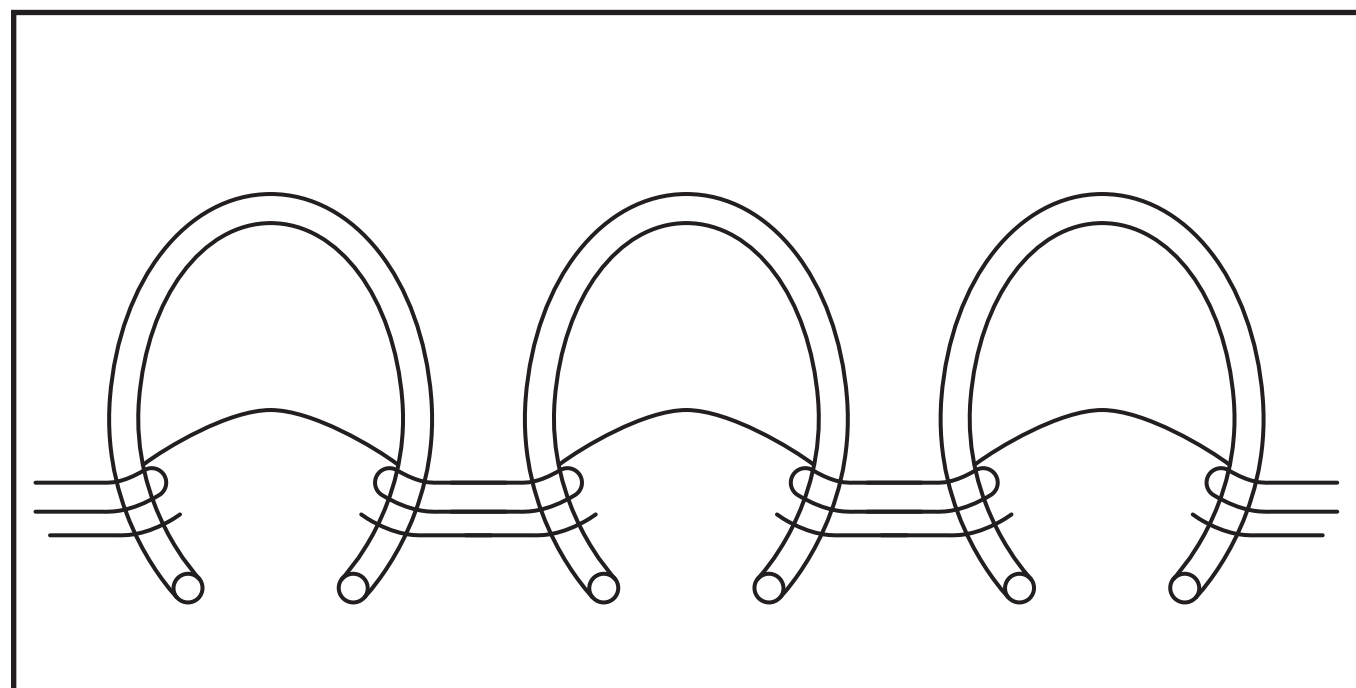
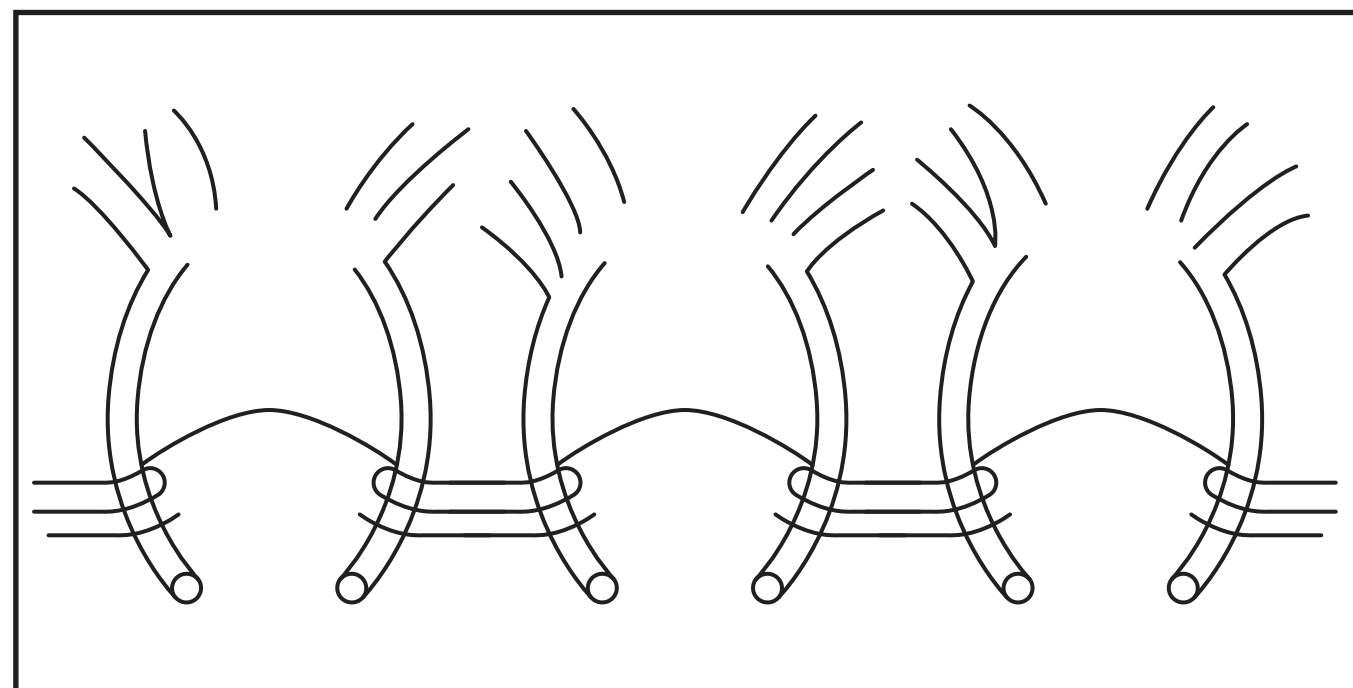


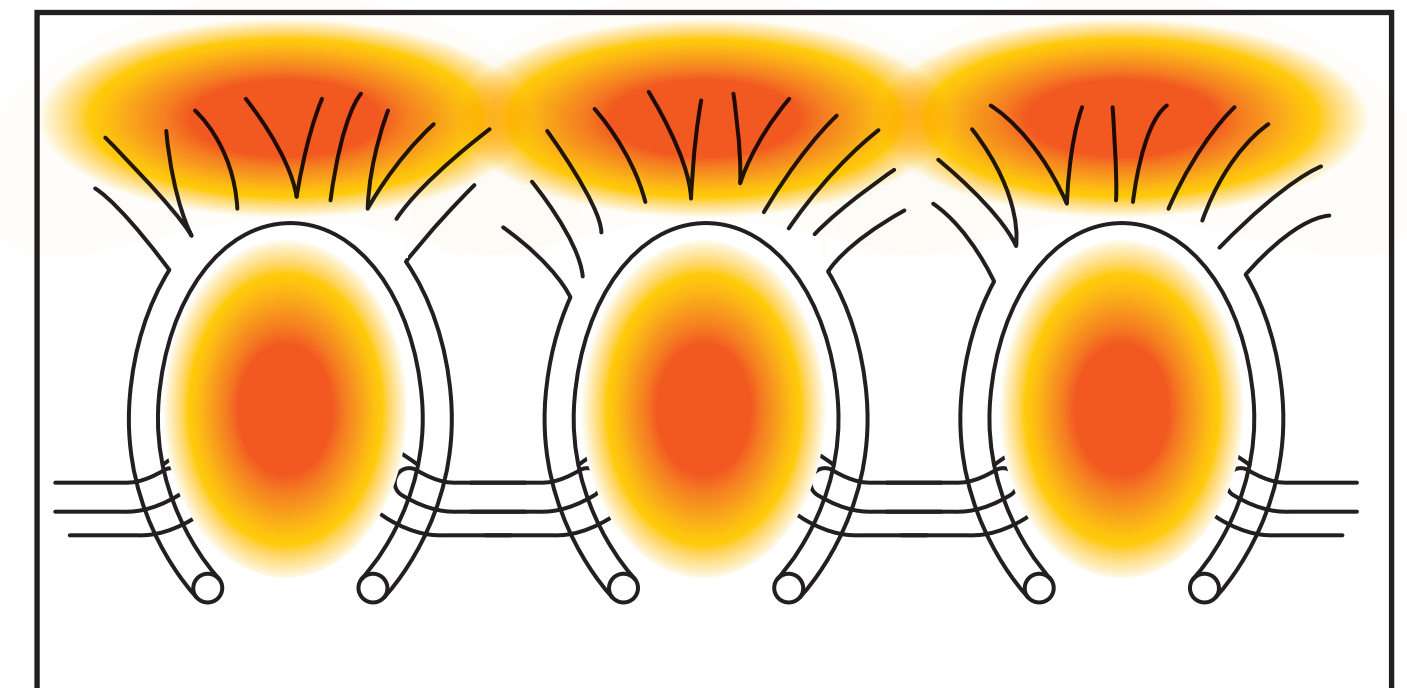
もちはだの起毛が特別な理由。



1. 起毛前のループの状態



2. 従来のループを破壊する起毛



3. もちはだ独自のループを残す起毛

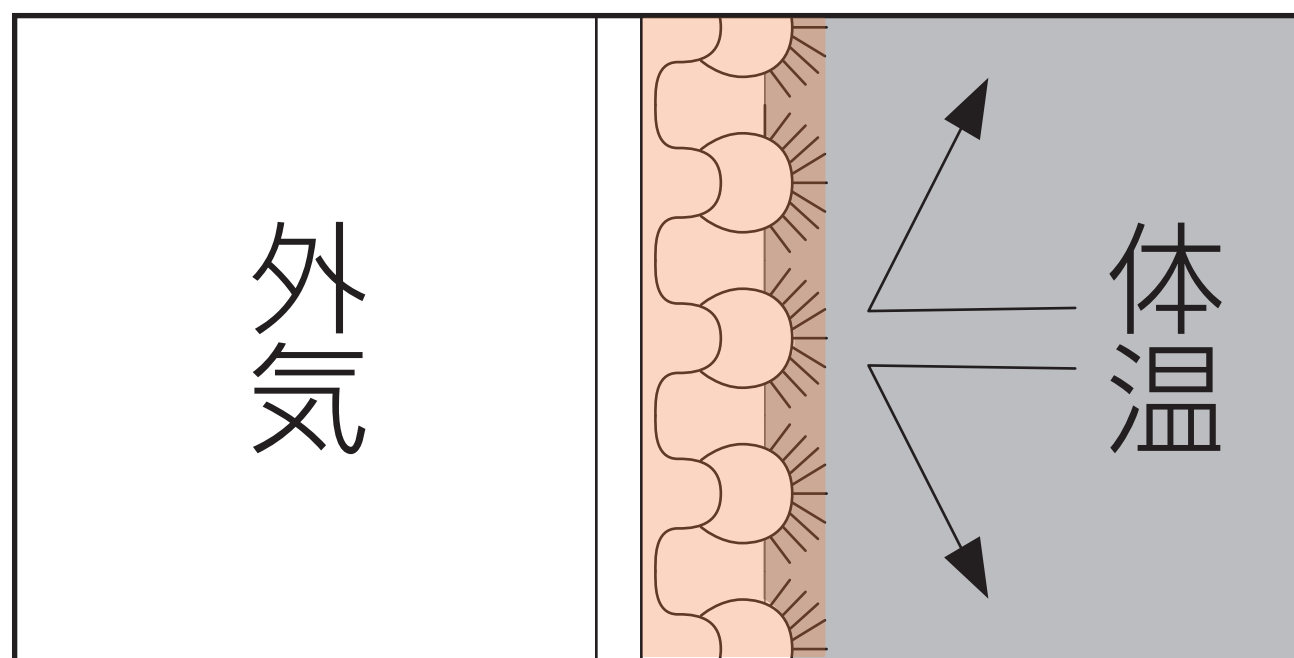
もちはだの編地は特別です。

編地の状態はパイル編み（イラスト1）です。パイル編みは、タオルのようにループ状に編まれています。このループは中に空気を溜め込み、生地にクッション性をもたらす重要な役割を持っています。

しかし、このパイル編みに、従来の方法で起毛の処理をかけると、イラスト2のように生地が毛羽立つと同時にループも破壊されてしまいます。つまりせっかくのループを活かすことができません。

これに対してもちはだの起毛ではこのループを破壊せず、イラスト3のように上部だけを起毛します。この方法では、起毛部分とループの両方に空気を溜めることができるので抜群の保温力を持つ生地に仕上がります。

もちはだの保温性。空気の層であたためる。

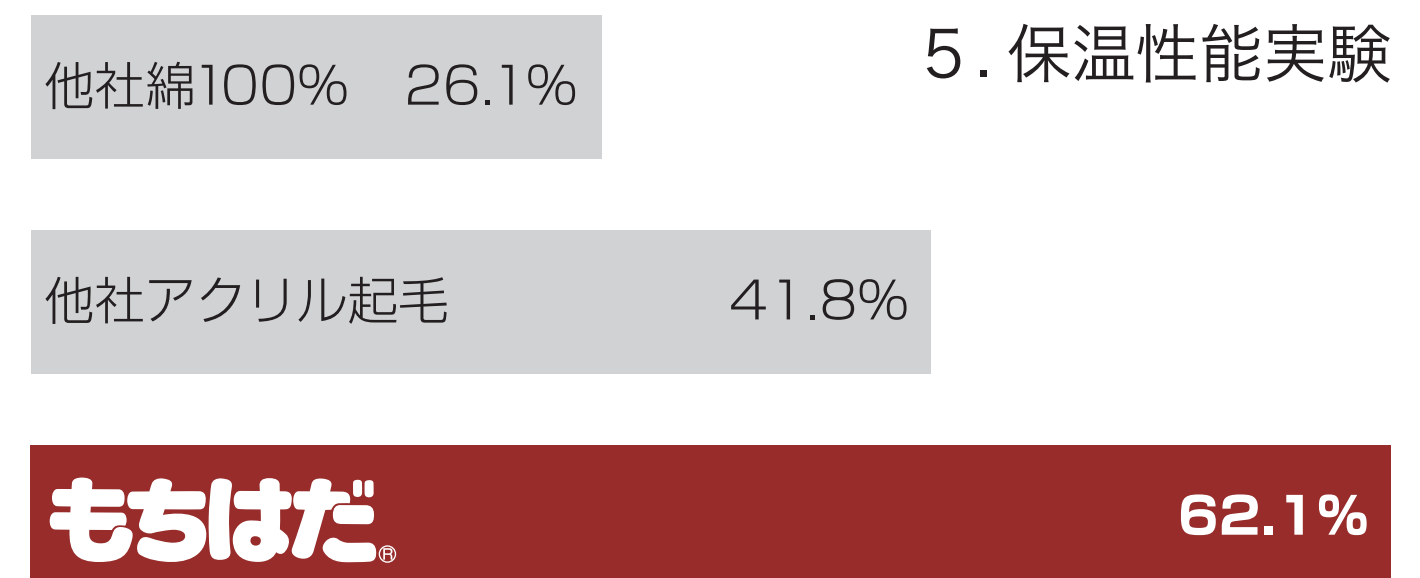


4. もちはだの断熱

▲
空気層

もちはだの起毛によって実現した厚い空気層は、外気を遮断し、体温を外に逃さないことで高い保温性を実現します。（イラスト4）
また、余分な汗は裏地から表へ移動し発散されるので、蒸れづらく快適です。

右は、もちはだと他の生地との保温性を比較したグラフです。一定の条件下で保温率を比べると、もちはだの保温力が他の素材や起毛と比べて高いことが証明されました。



保温性試験 / 兵庫県立工業技術センター（平成12年6月14日）

* 常に30℃になるように温度制御された熱板上に実験用の生地を置き、上部から20℃の風速0.3m/sの風を送る。保温率は、熱板30℃維持するための消費電力と生地を置いて維持したときの消費電力から計算。
熱板30℃維持するための消費電力が少ないほど、生地による保温力が維持されていることになります。